

911.1

寺

一休  
卷  
狂歌  
同  
番

史記...  
 御...  
 御...  
 御...  
 御...  
 御...  
 御...  
 御...  
 御...  
 御...  
 御...

卷川休  
 抱款  
 問  
 於  
 全



木別子頂櫃君  
 地獄

本...  
 本...  
 本...  
 本...  
 本...  
 本...  
 本...  
 本...  
 本...  
 本...



用  
 木和尙  
 紫野木徳寺仲師

一休款  
 問  
 於  
 全

教訓歌

何事も成さず  
手取らば  
今日も成さず

此の世は  
無常の世なり  
則ち死は  
必ずしも  
来りて

由りて  
何事も  
成さず  
此の世は  
無常の世なり

何事も成さず  
手取らば  
今日も成さず  
何事も成さず  
手取らば  
今日も成さず



天の神は...  
父母は...  
兄弟は...  
夫婦は...  
宗廟は...  
山川は...  
鬼神は...  
祖先は...

天の神は...  
父母は...  
兄弟は...  
夫婦は...  
宗廟は...  
山川は...  
鬼神は...  
祖先は...

父母の事...  
兄弟の事...  
夫婦の事...  
宗廟の事...  
山川の事...  
鬼神の事...  
祖先の事...

新比良丸

五葉の

神の

たすけ

いそぎ



新比良丸  
たすけ  
いそぎ

今日本は  
 老翁の自伝  
 今日本は  
 老翁の自伝  
 今日本は  
 老翁の自伝

松東やびてくまをたぬわて  
 くらまふふおぶるびくく  
 松川

望しき思も要事せぬ  
 さそやあんまもるるる  
 松川

ちぎくと何故定まの百  
 いちぢぢとて方と終人  
 松川

松東はつららの果をのり  
 酒のさくらを揮る  
 松川



女房はさしき  
 一のつねのしき  
 深人者一の  
 神の天のつね  
 志るしつね  
 ちまふつね  
 ちまふつね  
 付居はまふ  
 世ふつね  
 のつね  
 神つね  
 ちまふ



女房はさしき  
 一のつねのしき  
 深人者一の  
 神の天のつね  
 志るしつね  
 ちまふつね  
 ちまふつね  
 付居はまふ  
 世ふつね  
 のつね  
 神つね  
 ちまふ

つい平にわしわしはけりたふ  
 ちまふつねのしき

神つねのしき  
 神つねのしき  
 神つねのしき

四ノ巻

我が世

の世

六ノ巻

わが世



ひる夢をむくも迷ふ

さうくはさくはたふらへん

はまやまをぞ歎と因入

死にけり身はせんれい得替

松葉六十万俵食らるるなり

こゝもはせぬまじり一足一

年一に悪ふれたは

手電方ひたぐ入れし

おひきうり下りたが

うきはかき美風ふりて

青紙は涙も高きは

とんかたをなす

佛 松川

右に... 左に... 中... 下... 上...

六世

くろひら  
たごす  
ありの

ありの

孝



ふたつとまきつた世にあらは  
たごすの種と保ての身は

一代のまきつた世にあらは

まきつた世にあらは

世の中をまきつた世にあらは

まきつた世にあらは

肉毛をまきつた世にあらは

りてまきつた世にあらは

浮世はまきつた世にあらは

まきつた世にあらは

世の中をまきつた世にあらは

まきつた世にあらは

六世のまきつた世にあらは  
たごすの種と保ての身は  
ありの

昔のやうにあり  
わやまりと云ふ  
みづつちもよく  
あつたは  
あつたは  
あつたは

あつたは  
あつたは  
あつたは  
あつたは



あつたは  
あつたは  
あつたは  
あつたは

わさるるこころ  
あつたは  
あつたは  
あつたは

あつたは  
あつたは  
あつたは  
あつたは

我之流心也

之

不

不

同

不

不

不

不

不

不

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子





人の心を...  
とあり...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

此の...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

通油町南側中程

東都書肆

藤岡屋慶次郎殿

